

令和元年8月2日  
姫路海上保安部

## 海の安全講習の実施について

～大塩校区の子供たちに海の楽しさを知ってもらおう～

姫路海上保安部では、令和元年7月29日（月）、兵庫県高砂市所在の播磨マリナーナにおいて、大塩校区子ども会からの依頼により海の安全についての講習を行いました。当日は大塩小学校6年生及び保護者53名が集まり、海洋レクリエーションの楽しさだけではなく、海に潜む様々な怖さについても講習を行いました。

始めに交通課職員から、海に入る前に守ってほしいことは、「飲酒したら泳がない」「遊泳区域で泳ごう」「水温の変化に注意」と子どもたちだけではなく、保護者に対しても訴えかけました。またアカエイやアカクラゲ、ヒョウモンダコなど色はキレイですが、刺されたり危険なので絶対触らないよう、刺されたら直ぐに救急車を呼ぶよう「海の危険な生き物」のことを紹介しました。さらに「離岸流」について、動画を見てもらい、離岸流に流された時は岸と平行に泳ぐこと、それが無理ならば浮くことに専念して体力を消耗させないことなど、自分の命は自分で守ることが重要であるとの講義を行いました。続いて警備救難課職員により膨張式救命胴衣が自動で開かない場合の対処方法を説明しました。

<交通課職員による講義>



<座学の様子>



<警備救難課職員による膨張式救命胴衣の取扱説明>



座学の後には、マリーナの前面海域で海中転落者の救助方法を体験してもらいました。交通課職員は、心臓麻痺を起こさないよう、海に入る前に守ってほしいことの一つ「水温の変化に注意」しながら、慎重かつゆっくりと入水しました。

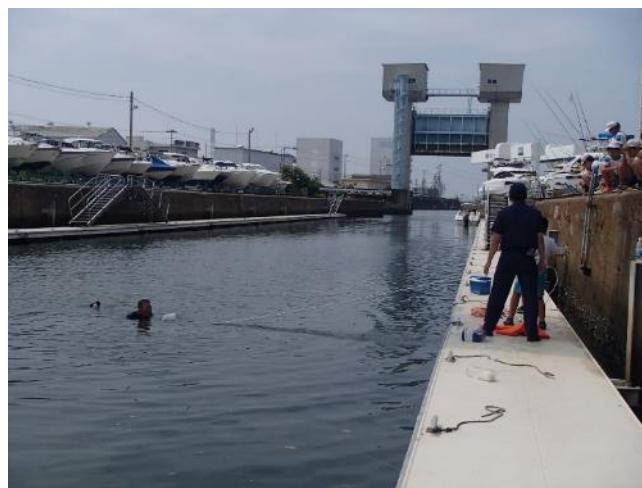
警備救難課職員は「子どもたちだけの救助には限界があるので、まず大声を出して大人を呼ぶことが大事である。」と力説し、救命浮環、海水を入れたビニール袋、クーラーボックス、水を入れたペットボトルと、身の回りにあるものを子どもたちに投げてもらい、括り付けたロープをたぐり寄せる体験をしました。

救命浮環は力一杯に投げても思ったより飛ばないこと、思いどおりのところに届かなくて人を助けるということは大変難しいことがよく分かったとの感想がありました。当部では、今後とも夏期海洋レジャーシーズンを迎え、水難事故防止のため、積極的に安全講習会を行うこととしています。

<ビニール袋に海水を入れている状況> <海中転落者に海水入りビニール袋を投げた状況>



<ロープを投げて海中転落者をたぐり寄せる状況>



<クーラーボックスを投げ入れた状況>



<ロープを括り付けたペットボトルをたぐり寄せる状況>

